

DeepSeek-V4.1-Flash-1017 知財実務における性能評価とリスク管理ガイド

性能向上とベンチマークの実態

コード・エージェント性能が大幅向上し高い費用対効果を発揮
DeepSWE v1.1で77.0を記録し、特定領域で大手開源モデルを凌駕。



1Mトークン対応とKVキャッシュ4分の1化で長文分析コストを削減
圧縮技術により、大量の特許文献や契約書の横断分析を低コスト化。

公式ベンチマークと独立評価（第三者）の間に無視できない乖離が存在

実運用環境や設定の違いにより、評価スコアに大きな差が生じる。



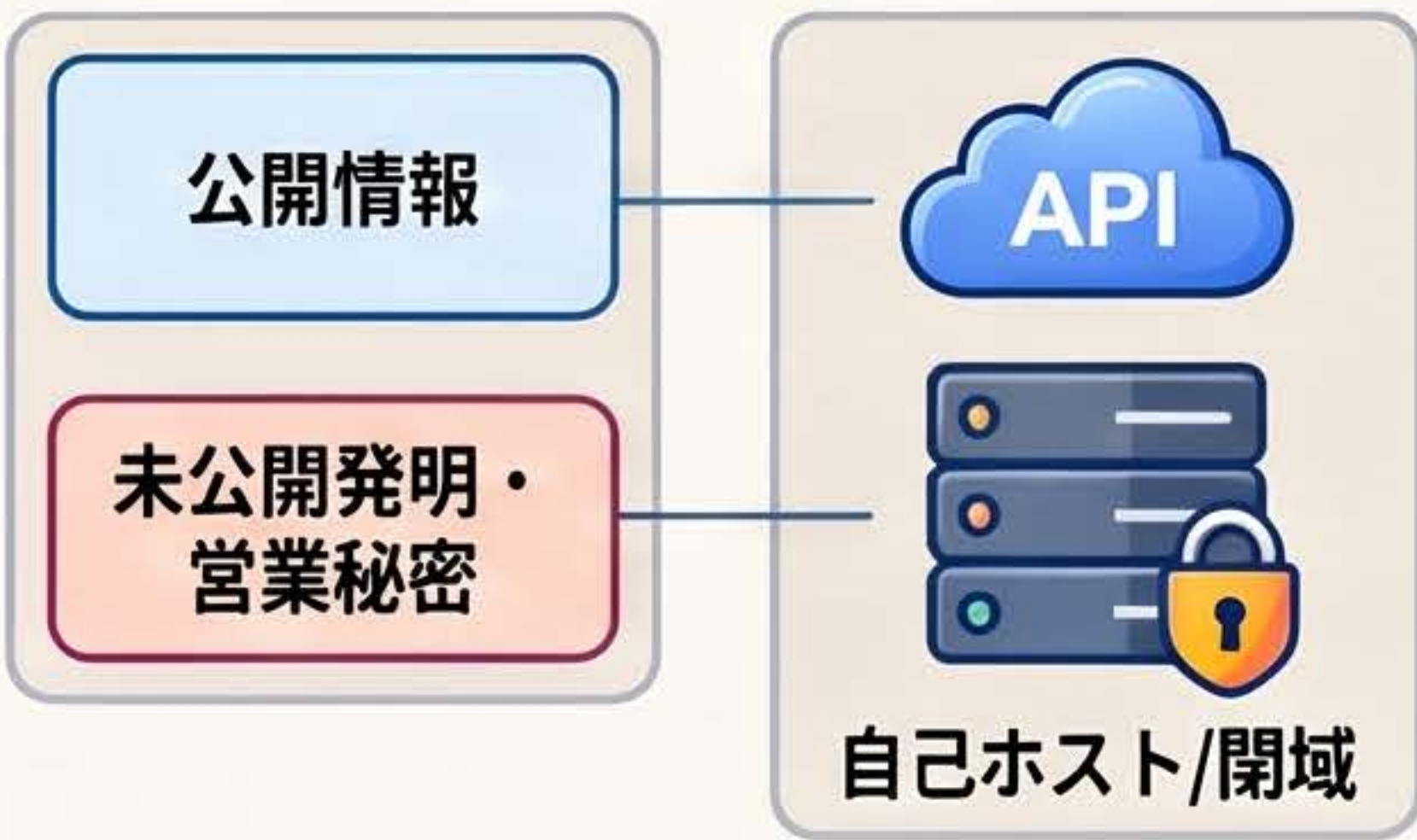
2026年10月公開。高いコストパフォーマンスと優れたコード・エージェント性能を誇る一方、第三者評価との乖離やリスクが存在。知財業務での活用には、性能の正確な把握と適切な環境分離ルールが不可欠。

知財リスクと企業運用ガイドライン



オープン重み（MIT）とホストAPI利用規約のリスクを明確に分離
モデル重みは商用利用可能だが、APIは生成物の非侵害性や正確性を保証しない。

情報の機密性に応じた「環境分離原則」の徹底



AIを法的判断者とせず「Human-in-the-Loop」を必須化

特許性判断やFTO、商標確認は必ず一次資料と専門家レビューで検証する。